

NEWS

2018年10月1日 本庶 佑 理事長のノーベル生理学・医学賞受賞が発表されたことを受けて 記者会見を行いました

本庶 佑 理事長の2018年ノーベル生理学・医学賞受賞が発表されたことを受けて、2018年10月1日（月）19時より、当機構の村上雅義 専務理事（写真右）、太田明夫 先端医療研究センター免疫機構研究部長（写真左）が記者会見を行いました。



記者会見の様子

【受賞概要】

2018年ノーベル生理学・医学賞

- 受賞者 本庶 佑（ほんじょ たすく）
神戸医療産業都市推進機構 理事長
京都大学高等研究院 副院長・特別教授
James P Allison（ジェームズ・アリソン）
テキサス大学 MD アンダーソンがんセンター（米国）

- 受賞理由 免疫抑制因子のブロックによるがん治療法の発見

【村上雅義 専務理事のコメント】

このたびは、当推進機構の理事長である本庶 佑 先生がノーベル生理学・医学賞というすばらしい賞をご受賞されたという朗報を受け、大変喜んでおります。

本庶先生には、神戸市が進めている神戸医療産業都市の立ちあげ段階から、当時、京都大学医学部長という立場でかかわっていただき、平成12年に当機構の前身である先端医療振興財団（以下、「財団」）設立後もしばらく理事としてご指導を賜ってまいりました。そして、平成27年7月からは財団の理事長として、先頭に立って財団の運営に、そして神戸医療産業都市の推進に携わっていただいております。

また、本年4月から、当機構は、本庶先生のリーダーシップのもと、神戸医療産業都市という神戸クラスターの持続的な成長と、クラスター内のイノベーションを加速させるために組織の見直しを行い、組織の名称も神戸医療産業都市推進機構に変更し、名実ともに医療産業都市の推進に心血を注ぐことにいたしました。

本庶先生には、まさに神戸医療産業都市の「顔」になっていただいております。

この神戸医療産業都市の顔である本庶先生がノーベル賞を受賞されましたことは、神戸医療産業都市にとって強い追い風であり、世界に向けてより一層アピールできることになり、今後の大いなる飛躍につながると、大変嬉しく思っている次第です。

さらに、本庶先生は理事長という立場だけでなく、研究者としてもご活躍いただいております。この神戸の地においては、平成28年4月にMeiji Seikaファルマ株式会社との共同研究を開始され、そのプログラムディレクターとして「自己免疫疾患や癌に関する創薬研究」にも携わられておりますとともに、平成30年4月より、シスメックス株式会社、京都大学との共同研究を開始され、同じくプログラムディレクターとして、「免疫関連疾患の診断技術の開発」にも関わられております（創薬イノベーションプログラムの一環として実施）。本庶先生の神戸での研究にもさらにはずみがつくものと考えています。

本庶先生は、ポリシーや基本を大切にされ、きめ細かく的確な推進機構のかじ取りをされています。おそらく今回、ノーベル賞を受賞されたことにとともに、これまで以上にお忙しくなられると思いますので、我々としては、全力で本庶先生をお支えし、先生のご負担を少しでも軽減できれば、と考えております。

そして、ノーベル賞受賞者を理事長にもつ組織として、恥ずかしくないよう、いままで以上に職員、力を合わせ、神戸医療産業都市のさらなる発展をめざし業務に邁進いたす所存でございます。

【太田明夫 免疫機構研究部長のコメント】

本庶先生と一緒に働いていた研究者に対し「研究している間に、どんな病気でもいいから1つでも病気を治癒できるよう、患者さんを救えることを目標におくべき」と仰っていました。そういったことを目標にし、意識して研究することが研究者の責任であると考えています。

本庶先生は、非常に研究が好きな方で、研究はストレートに取り組まれます。いろいろな研究者がいますが、本庶先生はとにかくデータを厳しく見て、それをベースとして、真実を突き詰めて進められます。

本庶先生が発見されたPD-1というのは、（本庶先生はよく車のブレーキとアクセルに例えられますが）免疫系のブレーキに当たる分子です。PD-1が刺激されると免疫を弱くすることになるので、がんの治療としてはよくありません。今回の受賞の対象となった研究は、免疫を抑制する機能（ブレーキ）を解除することによって、実際にがんが治るのではないかとこの考えによるものです。

神戸で行っている共同研究の一つは、このメカニズムを逆方向に利用して、PD-1のブレーキを人為的に強めるような調節をすれば、自己免疫疾患とか炎症が強すぎて困る病気等の治療につながるのではないかとという観点から進めているプロジェクトです。

神戸に来られる際は、お忙しく限られた時間の中で時間をとってください、我々研究室の全員とのミーティングを欠かさず、必ず実施していただいております。大学院生も含めて、初歩的なデータもしっかり見てくださいます。そういったところは以前から感銘深く感じています。

- ・免疫機構研究部の主な取り組み

<https://www.fbri-kobe.org/laboratory/research1/>

- ・自己免疫疾患と癌の創薬研究に関する共同研究の開始について

<https://www.fbri-kobe.org/pdf/press20160415.pdf>

- ・免疫関連疾患の診断技術の開発に関する共同研究の開始

<https://www.fbri-kobe.org/pdf/press20180627.pdf>

【井村裕夫 名誉理事長からのお祝いのメッセージ】

本庶博士は分子生物学の手法を使って、免疫学の発展に大きく貢献してきた。その一つが今回ノーベル賞受賞の対象となった PD-1 という分子の発見である。この物質が免疫を抑制する作用を有することが明らかになり、それに対する抗体を作るとがんの有効であることが証明された。がんは遺伝子に変化が起こって免疫系の攻撃を受けるはずであるが、この PD-1、あるいは今回共同受賞するアメリカの Allison 教授が発見した CTLA-4 という物質を使って、免疫系の攻撃を巧みに逃れていることが明らかになったのである。従ってこれらの物質の働きを抗体によって抑制すると、免疫系の攻撃によって、がんを治療できることが、明らかになってきた。

がんは日本人の死因の第 1 位であり、それに対する新しい治療法を開発した本庶教授の業績は、偉大なものであり、心からお祝いを申し上げたい。

【関連リンク】

- ・本庶佑理事長あいさつ（平成 30 年 4 月 神戸医療産業都市推進機構発足時）

<https://www.fbri-kobe.org/about/>